

派遣報告書

平成29年3月31日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会
会派 くらよしアイズ・倉吉自民共同、市民共同
(視察代表幹事長) 議員 丸田 克孝



次のとおり行政視察・調査を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 派遣期間

平成29年3月28日(火)から平成29年3月30日(木)まで

2. 派遣先

- | | | |
|-------------------|----------|-------------|
| (1) 栃木県日光市役所 | 3月28日(火) | 14:00~16:00 |
| (2) 栃木県宇都宮市役所 | 3月29日(水) | 14:30~16:30 |
| (3) 議員会館 石破 茂 事務所 | 3月30日(木) | 10:00~10:15 |

3. 視察議員名

倉吉アイズ・倉吉自民共同 段塚 廣文 福谷 直美 丸田 克孝
市民共同 中野 隆

4. 面会者

- | | |
|----------|---|
| (1) 日光市 | 市議会議長 田村 耕作氏、
総合制作部秘書広報課 シティプロモーション推進室 副参事兼室長 吉澤 幸雄氏 |
| (2) 宇都宮市 | 宇都宮市教育委員会事務局
係長 手塚 洋氏 主任 桑川 浩之氏 |
| (3) 東京 | 石破 茂 国会議員 |

5. 派遣目的

- | | |
|-----|--------------------------|
| (1) | 日光市・・・「日光ブランド戦略プラン」 |
| (2) | 宇都宮市・・・「通学路交通安全プログラムの策定」 |
| (3) | 議員会館・・・「要望活動」 |

6. 視察の経過及び感想

別紙

7. 添付書類

視察先提供書類

要した経費 : 4人合計 352,140 円

視察・調査の経過及び感想

(1) 栃木県日光市 3月28日(火) 14:00~16:00

日光市は栃木県北西部に位置し、北は福島県、西は群馬県に接していて、総面積は1,449.83平方キロメートルあり、栃木県の4分の1を占めています。

日光国立公園地域を中心とする山間部の多くは、水源かん養や自然環境の保全等の機能を担う振興山間地域に指定されているほか、一部地域は水源地域にも指定されており、地形は標高200m程度の市街地から2,000mを超す山岳地域まで大きな起伏があり、四季を通じて変化に富んだ観光・スポーツ・レクリエーションを可能にしており、多くの観光客が訪れています。

気候は、内陸性気候に属し、年平均気温は市街地で12℃程度、山間部では7℃程度であり、夏季は比較的涼しく、冬季は氷点下になることも多く、四季折々の寒暖の差が美しい自然景観を醸しだしています。市制施行は平成18年3月20日で人口は85,268人(2016.10.1現在)です。

将来の都市像は～暮らして満足 訪ねて納得 自然と笑顔になれるまち～として、さらに日光ブランド戦略を推進しています。

合併により多くの地域資源を持つ日光市ですが、歴史や温泉、紅葉などのイメージだけでは、広い地域と豊富な資源を表現できないので、国内外から日光市を選んで貰うためには、既存の地域資源の強化と合わせて、豊富な資源を様々な地域や産業と結びつけ「新たな魅力=日光ブランド」を作り出すことが求められており、年間1,000万人の観光客を迎える交流パワーと結びつけ、日光への愛着の醸成、市民の活力の醸成、産業振興、地域活性化など、様々な波及効果の創造を目指しています。

日光ブランドの戦略については

日光ブランドの定義・・・「都市ブランド」「地域ブランド」との融合

基本コンセプト・・・「FAN」 FOR ALL OF NIKKO として「日光ファンクラブ」の結成

日光ブランド戦略

3つの基本戦略を定め、ガイドラインとして「日光ブランド18の約束」定義

さらに、これからの日光ブランド戦略として(第2次日光ブランド戦略)を掲げています。

日光ブランド認定制度

ブランド制度の目的、特徴、認定方法や審査基準を定めています。

日光ファンクラブの会員は1,600人いて、アンケート調査などの協力を得ています。

認定後の日光ブランドは現在147あり、ホームページやパンフレット等でPRをされています。

今後は、ふるさと納税返礼品への活用や各種プロモーション活動により、多くの人々に地域資源を知っていただく機会をつくり、回遊性を高め、来訪者の満足度の向上につながる取組を展開しようとされています。

世界遺産や有数の温泉を持ち、年間1,000万人を超す観光客を誘致しながら、国内外が持つ日光市のイメージが、まだ表現できていないと言う思いからの事業に共感を覚えました。

市民が地元へ愛着を持ち、そして元気になるための普及・啓発活動が、わが倉吉市にも必要であろうと感じました。

(2) 栃木県宇都宮市 3月29日(水) 14:30~16:30

50万人以上都市で、平成25年から4年連続「住みよさ度」ランキング1位に輝いている都市、宇都宮市は田舎の穏やかさもあれば、都会の便利さもある。そして水も食べ物もおいしい。温かい人間味もある。商業・工業・農業も盛んで住んでよし、働いてよし、子育てよしの都市で、発展力のある街として高く評価されている宇都宮市です。

平成20年に市教育委員会は「通学路における児童生徒の安全確保に関するガイドライン」を策定し、それに基づき、各学校において、交通安全、生活安全(防犯)、災害安全の視点により、通学路の設定や定期的な安全点検を実施し、子供たちへの安全教育の充実と、通学路の安全確保に努力している内容について調査しました。

通学路交通安全プログラムとは

目的 各学校で、保護者や地域と連携を図りながら、通学路の設定や日常的な通学路の安全点検・交通安全教育を実施し、保護者や地域の方々の協力のもと、教育委員会・学校・警察・道路管理者などの関係機関との連携により、スクールゾーンの設定の考え方、通学路の合同点検などをする。

プログラムの位置づけ より効果的・効率的な交通安全対策の検討・実施を検討し、運転者に対する注意喚起等の取組を推進する。

推進体制 平成24年7月に設置した「通学路の交通安全確保に関する連絡協議会」を原則年3回開催し、点検テーマや対策の検討、進捗状況を確認する。

「通学路の交通安全確保に関する連絡会議」の委員

- (市) 市小・中学校長、市PTA連合会、建設部、市民まちづくり部、教育委員会
- (県) 県警本部、宇都宮中央警察署、宇都宮東警察署、宇都宮南警察署
県土整備部宇都宮土木事務所
- (国) 国土交通省宇都宮国道事務所

取組方針 PDCAサイクルとしての効果把握を図る。

- P・・・Plan(計画)
- D・・・Do(実行)
- C・・・Check(評価)
- A・・・Act(改善)

この4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していく。

スクールゾーンの設定 全小学校を対象に、学校を中心に周囲約500mの範囲をスクールゾーンに設定。

- 対策例として、周知啓発・・・リーフレット作成、看板設置、路面標識
- 交通安全教育・・・交通安全教室、スクールゾーンマップ作成
- 地域・関係組織と連携した活動・・・スクールガードによる立哨・巡回指導
- その他・・・速度規制、横断旗補充

PDCAサイクルを活用した対策の推進

合同点検の実施にあたり、事前の点検、合同点検のテーマ設定、実施個所の選定など、きめ細やかな準備して実施していく。

- 対策の検討 合同点検の結果を検討し、対策の一覧表を作成する。
- 対策の実施 対策の早期実施へ向け取り組む。
- 対策効果の把握 対策実施後の効果について調査を行う。
対策例・・・車両の速度
車両と歩行者の距離
交通規制の取り締まり実施状況 など
- 対策の改善・充実 実施後も合同点検や効果把握の結果を踏まえて、さらに改善・充実を図る。
- 箇所一覧表、箇所図の公表 小学校ごとに「対策一覧表」及び「対策箇所図」を作成してホームページなどで公表する。

市の関係部所、県の関係部署そして国を交えての連絡協議会の開催、そして対策効果の把握など繰り返して実施される検証など感心しました。

わが倉吉市ももっと、もっと関係部署との会議を持ち、今以上に安全・安心な町にしていく事を決意して調査を終了しました。

(3) 石破 茂国会議員への要望活動 他 3月30日(木) 10:00~10:15

少し早めの、9時30分頃に議員会館に到着し、待っているつもりで議員事務所へ伺いました。ところが、早めにお帰りになられた先生が、50分の予約訪問団の前に接見していただき、さらに50分の訪問団の後にも、お時間を作っていただき、10時半近くまでお話をさせていただくことができました。

先生とは、トップを目指して頑張ってくださいよう激励し、国道179号線ハワイからの進入道路の早期実現、山陰新幹線の早期実現、中部地震の復旧・復興のための援助、等々について要望をいたしました。そして現国会で審議中のテロ特別措置法、北朝鮮問題、また森友問題などの件について詳しく教えていただき、さらに見識を深めることができました。



3月28日(火) 日光市視察



3月29日(水) 宇都宮市視察



3月30日(木) 石破先生事務所 秘書の方と共に



3月30日(木)

石破先生と懇談中